

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービスソレソレcolors		
○保護者評価実施期間	2026年 2月 1日		2026年 2月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	22人	(回答者数) 17人
○従業者評価実施期間	2026年 2月 1日		2026年 2月 28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7人	(回答者数) 5人
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 11日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	鶴居村の広大な自然を、日常的な支援フィールドとして活用しています。四季折々の変化を肌で感じ、動植物と触れ合う体験は、お子さんたちの感覚統合や情緒の安定に極めて肯定的な影響を与えています。都市部では得られない「本物の自然」の中での活動は、ソレソレの最大の独自性です。	単なる外出レクリエーションに留めず、村の自然や地域資源を「生きた教材」として地域交流を含めた幅広い活動の一つとして取り組んでいます。	昨年立ち上げた保護者会との連携を一段階深め、単なる意見交換の場に留まらない、保護者同士の「共助」と「学び」の活動を増やします。
2	村の方々との日常的な挨拶や交流を通じて、お子さんたちが「地域の宝」として見守られる環境があります。行事への参加や、地域住民との共同作業は、生きた社会適応能力を育む貴重な機会となっており、子どもたちの自己肯定感を高めています。	kintone(業務管理)、LITALICO発達ナビ(療育支援)、LINE WORKS(ビジネスチャット)を導入し、用途に合わせて使い分けることで、支援の質向上と事務負担の軽減を両立させています。	kintone、LITALICO、LINE WORKSの運用をより強固にし、個人情報の保護と共有の利便性を高い次元で両立させます。
3	廃校となった小学校の校舎を活用することで、一般的な放デイ事業所にはない広さと設備を確保しています。雨天時でも思い切り身体を動かせる環境や、静かに過ごせる個室など、特性に合わせた「居場所の使い分け」が物理的に可能であり、パニックの予防やストレス緩和に直結しています。	旧幌呂小学校とソレソレ施設という異なる特性を持つ空間を使い分け、子どもの状態に合わせた環境設定(構造化)を徹底しています。	旧幌呂小学校という歴史ある施設をベースに、地域住民と子どもたちが自然に交わる機会を意図的に創出します。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	旧幌呂小学校という広大な校舎と、豊かな自然環境は最大の魅力ですが、反面、スタッフの視線が届きにくい「死角」が生じやすいというリスクがあります。	旧幌呂小学校という恵まれた広大な活動環境がある一方で、お子様の動態把握や死角のカバーに多大な人的リソースを割かざるを得ない状況があります。これが、スタッフ一人あたりの心理的・身体的負担を増やす要因となっており、より効率的かつ確実な見守り体制の再構築が求められています。	お子様が活動するエリアを視覚的に限定・整理する「環境の構造化」をさらに進めることで、スタッフが少ない動きで全体を把握でき、安全性を担保しながらお子様の自由度も確保できる体制を作ります。
2	鶴居村という立地条件もあり、新しい専門スタッフ)の採用や、外部研修への頻繁な参加が物理的・時間的に容易ではありません。現在はベテランスタッフの経験値に頼っている部分があり、支援の根拠を言語化し、若手へ継承する仕組みが必要です。	地域交流や保護者会の立ち上げには成功したものの、現在はイベントごとの単発的な活動に留まっており、日常的・組織的に交流が循環する仕組みが未完成です。これは、運営側が日々の支援業務に追われ、中長期的な関係構築のための企画や調整に十分な時間を割けていないことが根本的な要因であると考えています。	幌呂小学校を拠点とした行事をあらかじめカレンダー化し、地域住民や保護者会と事前に役割分担を協議する場を設けます。
3	学校や病院との物理的な距離があるため、日常的な情報交換が連絡帳や電話に限定されがちです。お子様の体調に合わせ、緊急事態の対応に課題があります。	kintoneやLINE WORKS等のクラウドシステムを導入し始めた段階であり、スタッフ間や保護者様との情報伝達において、まだ一部でアナログな手法(電話や対面のみ)に依存している部分が残っています。これが、緊急時のレスポンスや、支援内容の均質化を妨げる要因となっており、システムをより「使いこなす」習熟度の向上が課題です。	導入したkintoneやLINE WORKSを全スタッフが「使いこなせる」よう、定例の操作勉強会を実施します。また、「どの情報を、いつ、どのツールで共有するか」という運用ルール(プロトコル)を明文化することで、情報の漏れやタイムラグをなくします。保護者様に対してもシステムの安全性を丁寧に説明し、デジタルを通じた信頼関係の深化を図ります。

公表 保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 放課後等デイサービスソレソレcolors

公表日 年月日 2026年3月13日

利用児童数 22人

回収数 17人

		チェック項目	評価				ご意見	ご意見を踏まえた対応
			はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	92.3%	7.7%	0.0%	0.0%	幌呂小学校の活用で活動の幅が広がったと思います	ベースの有効活用:「幌呂小学校の活用で活動の幅が広がった」との声があり、92.3%が肯定的です。今後も村内の様々な場所にお出かけすることで交流も含めてすすめるようにしていきたいと思ひます。
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	76.9%	23.1%	0.0%	0.0%	支援の様子をみていない為判断できない職員が児童に対する接し方や関わり方に偏りがあると思います	日々の支援内容が伝わりにくい状況にあり、ご不安をおかけしております。今後はスタッフと直接お話しいただける機会(面談等)についても、柔軟に設けていけるよう体制を整えてまいります
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	92.3%	7.7%	0.0%	0.0%		バリアフリーだけでなく、より環境が整うように安全対策含め気を付けています。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	92.3%	7.7%	0.0%	0.0%		より環境が整うように安全対策含め気を付けています。
適切な 支援の 提供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%		お子様一人ひとりの特性を客観的に分析し、将来を見据えた計画を立てるといふ当事業所の根幹を今後も継続できるよう努めていきます。
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%		今後は、現在のプログラムをベースにしつつ、本人の成長段階に合わせてステップアップした活動も取り入れていただけると、より活気ある場になると期待しています。
	7	こどものことを十分に理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画(個別支援計画)が作成されていると思いますか。	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%		今後も、個別支援計画の目標に対するお子様の変化や、私たちの支援の意図をより分かりやすくお伝えし、発達の状況を共に喜び、課題を分かち合えるよう努めます。
	8	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%		今後は、計画にある支援内容を家庭で再現するための具体的なアドバイスや情報交換の機会をつくっていききたいと思ひます。
	9	放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%		今後も、保護者の方々に伝わるよう、情報共有をしていきたいと思ひます。
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	61.5%	38.5%	0.0%	0.0%	主に平日のみの利用の為、良くわかりません。	アンケートでは「よくわからない」という貴重なご意見をいただきました。日々の支援がマンネリ化せず、お子様の成長に繋がるよう、取り組みを強化いたします。
保護者 への 説明 等	11	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	61.5%	38.5%	0.0%	0.0%		地域社会の中で自分らしく生きていくための「架け橋」でありたいと考えております。お子さんたちのつながりもより機会を持てるように努めていきたいと思ひます。
	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	92.3%	7.7%	0.0%	0.0%		利用料金や支援の仕組みといった、事業所として丁寧に説明が今後できるように努めていきます。
	13	「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%		今後は、計画にある目標に対して、日々の活動がどう結びついているのか、スモールステップでの進捗を定期的にお伝えしていきます。
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%		家族としての将来への不安が軽減されるように情報共有や研修の機会を設けていきたいと思ひます。
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていますか。	61.5%	38.5%	0.0%	0.0%	LINEをつかいすぐに報告や相談ができるため状況等を共有しやすい	今後は、単なる出来事の報告だけでなく、その行動の背景にある本人の心理状態や発達段階に基づいた、双方向の対話を大切にしていきたいです。
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	92.3%	7.7%	0.0%	0.0%	もう少し面談の機会やスタッフさんと話す機会があれば良いと思う	家庭での困りごとや小さな成長もプログラムに反映していただけるような、より密な意見交換の場を設けていきたいと思ひます。
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%		「今日何ができたか」だけでなく「どんなことを頑張っていた」「楽しんでいた」といった内容を常に共有できるようにしていきたいと思ひます。
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	61.5%	30.8%	7.7%	0.0%	保護者の集まる機会が少ないと思ひます	アンケートにて「保護者が集まる機会が少ない」という率直なご意見をいただきました。今後は、定期的に関けるように月行事などに組み込んでいきたいと思ひます。
	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	66.7%	25.0%	8.3%	0.0%	苦情の有無が分からないから答えられない	送迎時の声掛けや、個別面談の機会をより柔軟に設定できるよう配慮いたします。職員一同、傾聴の姿勢を磨き、心理的安全性が高い環境を整えてまいります。
	20	こどもや保護者との意思疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%		「伝えやすさ(聞きやすさ)」を意識した雰囲気づくりを行い、保護者やお子さんたちの不安や疑問をいつでもキャッチできる体制を維持します。

	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%		HPIに掲載して満足するのではなく、掲載したタイミングで保護者の方々にも情報発信できるように改善していきたいと思います。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%		個人情報の取扱いに関しては事業所内でも特に心配ごととして話題が上がっております。今後とも個人情報保護研修も含め、事業所内全体で意識していけるよう努めていきたいと思えます。
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%		感染症の流行状況等や、現在の利用者の特性に合わせて、年1回以上の定期的なマニュアル見直しを実施します。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	64.6%	15.4%	0.0%	0.0%	参加の頻度が高くないので、私達が知らないだけです...	定期的にお子さん向けの訓練を行うとともに、保護者との合同訓練等も今後実施していきたいと思えます。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思えますか。	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%		日々の支援の中で発生したヒヤリハットなどを全職員で即座に共有し、環境整備や見守り体制の改善に繋げる会議体を定例化します。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思えますか。	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%		特に事故等があった場合は保護者の方々に丁寧にご説明できるように努めていきます。
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%		今後もお子さんたちが安心して過ごせるよう、職員一同で情報共有・研修に努めていきたいと思えます。
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	92.3%	7.7%	0.0%	0.0%		プログラムや活動が固定化しないようお子さんたちの意見も聞きながら活動を考えていけるようにしていきます。
	29	事業所の支援に満足していますか。	92.3%	7.7%	0.0%	0.0%	子供同士のトラブルがあった際にすぐに職員間にはいれない為、その命のみ心配が残る。子供が楽しみに通所しているが障がいの子や目の障がいのお子さんが出て大変とは思いますが子供への接し方や関わり方で少し気になる点がありました。	当事業所ではお子様の安全を最優先に運営しております。より、安全面が確保できるように努めていきます。また、緊急事態や突発的な事故・トラブル等の発生時には、周囲のお子様にも活動の制限や待機など、安全配慮のためのご協力をお願いする場合がございます。お子様全員の命と安全を守るための措置として、何卒ご理解とご承諾をいただけますようお願い申し上げます。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日				
放課後等デイサービスソレゾレcolors		2026年3月13日				
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	100%	0%	工夫、スタッフ配置と利用児童のグループ分け こどもの特性に合わせて活動場所を分けている 活動が分かれている	面積基準を遵守するだけでなく、お子さん一人ひとりの「パーソナルスペース」をより確実に確保できるよう配慮します。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	100%	0%	現在は対応している。利用者が増えたら、送迎や対応が適切に稼働できるか不安。	お子さんの特性やバイオリズムに即応できるよう、基準以上の手厚い配置を目指していきます
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	100%	0%	職員一人一人が、環境整備に対して意識を持つことが必要。	「いつ・どこで・何をするか」が直感的にわかる「視覚的構造化」を、より徹底して進めます。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	100%	0%	幌小は改善の余地があることを分かって利用している。 定期的な清掃、環境整備を行っていく。	衛生管理に加え、照明や音などの感覚配慮を行い、お子さんにとっての「居心地の良さ」をより一層追求します。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	100%	0%		集団の中で辛くなった際、自分を取り戻せるカムダウンエリアを今後も保障します。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	100%	0%	毎週スタッフミーティングを実施し、報告や問題提起など情報共有に努めている	全スタッフの「気づき」が支援の質に直結するよう、風通しの良い組織文化をより強固に維持します。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	100%	0%		アンケートの数値だけでなく、その背景にある「保護者の願い」をより深く読み解く機会を設けます。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	50%	50%	スタッフ面談や朝の打ち合わせ。支援終了後の振り返り 支援以外の業務時間は職員同士が近い位置におり、常にコミュニケーションを取っている	定期的な面談やミーティングを通じ、スタッフ一人ひとりの声をより丁寧に汲み取ります。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	100%	0%	地域住民との交流 第三者外部とは。が分かりません。	客観的な視点を取り入れる外部評価をより積極的に活用できるように今後していきます。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	100%	0%	定例のミーティング内で研修の時間を設けている	外部研修への参加だけでなく、事例検討会などの学内研修をより体系的に開催します。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	100%	0%	クラウドデータベースで支援計画を整理している	プログラム内容を定期的に見直し、お子さんのニーズに即した質の高い活動をより安定して提供します。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	75%	25%	支援に入っていないので詳細はわからないが、現状では「その日の利用者の顔ぶれ」を見て活動を考えているように見え、各自の支援計画に基づいた活動がなされているか疑問である	潜在的な課題も見逃さず、将来を見据えた目標設定をより精緻に行います。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	100%	0%		チーム全体の視点を集結させることで、今後も多面的なアプローチをより豊かに展開します。
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	75%	25%		全員が同じ目標に向かって一貫した支援を行うことで、お子さんにより確かな安心感を提供します。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	100%	0%	支援スタッフが全利用者の個別支援計画を把握し実践しているようには見えない	日々のきめ細かな行動観察を組み合わせ、お子さんの状態をより多層的に把握できるようにしていきます。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	100%	0%	kintoneの個別活動報告によりあるていどの情報共有はされていると思われる	本人支援のみならず、家族支援や地域連携をバランスよく計画に盛り込みたいと思います。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	100%	0%		チームで検討することで、お子さんの多様な特性に合致した活動をより多面的に創出します。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	75%	25%		マンネリ化を防ぐため、季節感や新しい活動テーマをより柔軟に導入し、工夫します。

供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	100%	0%		安心できる個別活動と、社会性を育む集団活動のバランスを、計画段階からより精査して実行します。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	100%	0%		全スタッフがその日の目標を共有することで、お子さんの突発的な変化にもより迅速かつチームで対応します。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	50%	50%		良かった点も課題点もオープンに話し合うことで、翌日の支援の質をより一層高めていきます。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	100%	0%	kintoneアプリやLINE WORKSでの情報共有	日々の記録を単なる作業にせず、支援の効果を検証するためのデータとしてより丁寧に蓄積します。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	75%	25%		タイムリーに情報共有を行い、より一層丁寧なモニタリングを実施します。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	100%	0%		遊びや学びの中に、これらの要素をバランスよく散りばめ、お子さんの健やかな成長をより包括的に促します。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	75%	25%		自分の力で選び、決定する経験を積み重ねることで、お子さんの「選ぶ力」と「自信」をより力強く育みます。
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	100%	0%		支援担当者会議や関係機関会議には、日頃の様子を最も熟知している担当スタッフがより積極的に参画します。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	75%	25%	月1回のドクターの訪問 学校や社協とは連携が取れているが、保育分野ではまだまだである	保健、医療、福祉、教育など、多職種とのネットワークをより強固に構築します。今後は保育園訪問なども念頭に入れていきたいと思ひます。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	100%	0%	保護者との連絡ツールでのこまめなやり取り	年間行事や下校時刻の把握を徹底し、お子さんの生活リズムをより正確に共有します。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	50%	50%	今後、就学前の情報の引き継ぎも積極的に行える体制整備が必要。	学校とソレソレの支援の足並みをより密に揃えます。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	25%	75%		過去の支援実績を尊重しながら、現在の環境への適応をよりスムーズにサポートできるよう努めます。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	75%	25%		外部の専門的視点による助言を支援に還元できるように、スタッフの専門性と支援の質をより高次元で維持します。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	75%	25%	地域の子も参加できるイベント企画 今後、交流の機会を増やしていきたいように計画をしていく。	地域の多様な仲間と触れ合う経験を通じ、社会性や共生社会への理解をより豊かに育みます。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	50%	50%		地域の支援者と顔の見える関係を築くことで、お子さんのための社会資源をよりスムーズにつなげられるよう、意識していきたいと思ひます。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	50%	50%		日々の送迎や連絡を通じ、お子さんの小さな成長や課題をより細やかに伝え合ひます。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	75%	25%	親子参加イベントや防災茶話会 防災について考える機会はあるが、十分とは言えない	ご家族が自信を持って過ごすことができるよう、より機会を増やし、多角的にサポートしていきたいと思ひます。
関	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	50%	50%	説明の情報共有はしているが、どこまで理解されているか疑問である	納得感を持って利用を開始できるよう、疑問点に寄り添った対応をより徹底します。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	75%	25%		計画作成時には、お子さんのや保護者様のアセスメントをより丁寧に聞き取る機会をより確実に設けます。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	75%	25%		作成した計画を丁寧に示しながら、支援のねらいや具体的なアプローチをより明快に説明できるようにしていきます。
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	75%	25%		面談の機会を柔軟に設け、具体的なアドバイスや心理的なサポートをより適切に実施する機会を設けていきます。

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	100%	0%	イベントのサポートなど頼りだしているが、参加者が固定されがちなのが課題	保護者会や父母の会の活動をサポートし、保護者様同士が想いを共有できる場をより積極的に設けていきます。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	100%	0%		苦情受付の窓口や解決までの流れを、保護者様へより分かりやすく周知できるようにしていきたいと思います。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	100%	0%		今後もSNSの発信やお便りを継続的に公表していきたいと思います。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	100%	0%		スタッフ一人ひとりの意識を高め、プライバシーが守られた安全な環境づくりをより強固に進めます。
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	100%	0%		大切な情報が確実かつ丁寧に伝わるよう、保護者の方とより一層コミュニケーションをとれる機会を作っていきます。
非常時等の対応	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	100%	0%		案内状をお配りしたり、地域の公共施設にお便りの掲示、SNSでの公表などを継続的に行っていきます。
	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	100%	0%		事故防止や感染症対応などのマニュアルを常に最新の状態に保ち、スタッフやご家族へより深く周知します。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	100%	0%		避難や救出の訓練を繰り返し行い、スタッフが非常時に迷わず行動できるよう、備えをより万全にします。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	100%	0%	予防接種については不明	予防接種や最新の体調変化についても、ご家庭との連携を通じてより確実に行えるようにしていきます。
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	75%	25%	保護者からアレルギーの情報は得ているが、医師の指示書については不明	アレルギーのあるお子さんが安心して過ごせるよう、配慮と確認の仕組みをより二重三重に強化します。また医師の指示書についても今後確認できるようにしていきます。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	100%	0%		策定した安全計画を指針とし、安全管理に必要な研修や訓練をより体系的に行います。
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	75%	25%		安全確保に向けた事業所の取り組みを、保護者様へより丁寧に分かりやすく伝えられるよう、茶話会の機会を増やしたり、
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	100%	0%		スタッフ情報級を密にし、また具体的な再発防止策を講じることで、支援の安全性をより一層向上させます。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	100%	0%		適切な支援が行われているかを組織内で常に点検していきます。また、適切な支援研修を行っていきます。
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	100%	0%		万が一検討が必要な際は、ご家族へ丁寧に説明し、同意を得た上で計画に記載する手順をより適切に遵守します。	